

平成22年2月5日
原子力安全対策課
(21-93)
<11時00分資料配付>

大飯発電所1号機の原子炉停止について (1次冷却材中の放射能濃度の上昇)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所1号機(加圧水型軽水炉; 定格電気出力117.5万kW)は、定格熱出力一定運転中の平成22年2月1日、1次冷却材中のヨウ素(I-131)濃度および希ガス濃度(Xe-133)が、前回(1月29日)の測定値を上回ることが確認されたため、燃料集合体から漏えいが発生した疑いがあると判断し、1次冷却材中の放射能濃度の測定頻度を上げて監視を強化した。

1次冷却材中のヨウ素濃度は、保安規定で定めている運転上の制限値(63,000 Bq/cm³)に比べて十分低いものの、漏えい燃料の特定調査をするため、今週中に原子炉を停止することとした。

[平成22年2月1日 記者発表済]

大飯発電所1号機は、本日18時頃に出力降下を開始し、翌6日1時頃に発電を停止した後、2時頃に原子炉を停止する。

今後、1次冷却材中の放射能を低減させた上で、漏えい燃料の特定調査を実施する予定である。

問い合わせ先(担当:久保田)
内線2352・直通0776(20)0314

大飯1号機 1次冷却材中のよう素濃度、希ガス濃度および電気出力の推移 (第24サイクル 平成21年12月11日～平成22年2月4日)

